

【2017年11月】伊藤総領事メッセージ

トロントに着任して約一ヶ月が経ちましたが、その間に感じたことをいくつかご紹介いたします。

まず第一に、当地における日系コミュニティの方々と、日系文化会館の活動の素晴らしさに非常に感動いたしました。私が当初の予定を早めて当地に着任したのは、戦後再開された日本からのカナダへの移住 50 周年を記念する会合に出席するためでした。その会合は 400 名以上の方々が集まる大盛況で、主催者側はチケットを完売し、その後の出席希望者にはお断りを告げなくてはならなかったそうです。終戦前からカナダで生まれ育った日系人の方々、戦後 1967 年以降にカナダに移住された方々、そして最近カナダに移住された若い方々など、それぞれの皆様の抱えていらっしゃる背景はいろいろですが、多民族国家カナダにおいて、日本とのつながりを持ちながら社会に貢献をされている多くの方々と出会い、様々なお話を伺い、胸を打たれました。本年 140 周年を迎えた日系人の移民の歴史の重さと、今なお日本からの移住者を惹きつけ、日本の遺産を携えてやってくる人びとを



受け入れるカナダに、多民族主義の奥の深さを感じた次第です。

会場となった日系文化会館も、単にそのサイズが大きいだけではなく、カナダにおける日系人の歴史と文化が所々にちりばめられており、また日本文化に興味を抱く人であれば誰でもやってきて活動に参加できるというオープンな方針の下、

日系・非日系を問わず、多くの方々に訪問され、

【トロント新移住者 50 周年記念イベントにて】

活用されています。2009 年には天皇皇后両陛下もご訪問されていますが、これほど多くの人に愛されている日系文化会館は世界でもここだけではないでしょうか。今年はサンパウロに「ジャパン・ハウス」がオープンしましたが、ずっと以前からトロントでは日本政府の支援を受けることなく、日系人たちの手で、立派な日本文化発信の中心が築かれています。

第二に、以前カナダに勤務していた四半世紀前と比較して、日本文化がカナダに一層広く普及していることに驚かされました。例えば、トロントの街には 800 店に近い日本料理店があるそうで、街を回っていると寿司のみならず居酒屋、ラーメン屋も目に入ります。そのうえ、既にトロントにはオンタリオ州の水を使った日本酒の造り酒屋まで存在しているではありませんか。かつては日系人が中心で競技人口が少なかった剣道も、今や大学単位でも剣道部ができるほど盛んになり、日系人以外のカナダ人もたくさん練習しているそうです。11 月 5 日に出席したカナダ書道展では、ブリティッシュ・コロンビア州やケベック

ク州からも応募があり、カナダ人の方々が書かれた個性豊かで想像力に富んだ、素晴らしい作品に感嘆しました。当地で日本語を教えていらっしゃる先生方からも、最近では日本語学習熱が高く、生徒数も増加しており教室は定員一杯であることや、漫画やアニメをきっかけにインターネットで独学で日本語を学ぶ人々もふえ、しかも高いレベルにあることなども伺いました。コスプレ大会も大盛況とのことです。



【書道カナダ・表彰式にて】

多文化主義のカナダには、世界中から様々な民族が加わり、それぞれの文化が持ち込まれるわけですが、その中でも日本文化がこれだけ広まっているのは、やはりそれだけ人々の心を惹きつける魅力があるからに違いありません。それと共に、日本文化をカナダの方々に伝える努力を長年続けてくださっている方々にも改めて深い敬意を感じ、私の任期中に日本文化をさらに広めて行こうと決意をした次第です。

第三に、日本と関係を有していらっしゃる方々との再開や新たな出会いに溢れた毎日が続き、このような人々が時間をかけてカナダの地に根を下ろしていることへの感謝です。今年 30 周年を迎えたカナダ日本学会では、私が駐カナダ日本国大使館で書記官をしていた頃にお会いし、その後駐日大使を務められたジョセフ・キャロン・アジア太平洋財団理事長や井川スミス史子マギル大学元副学長、私の母校であるカールトン大学ノーマン・パターンソン国際関係研究所で今も現役のジョセフ・コヴァリオ教授などと再会しました。



JET プログラムの最新の帰国生を迎えての歓迎レセプションでは、これまでの JET 参加者が日本滞在の懐かしい思い出と共に日本への愛情をみなさんが熱く語ってくれました。また、様々な行事において、「自分は日本に住んでいた」というカナダ人、カナダに最近移住された第三国出身の日本生活経験者、第 3 国の外交官の方々が「カミングアウト」してくれます。

【JETプログラム帰国者歓迎レセプションにて】

このような方々に引き続き日本のファンとなっただき、これからも日本の素晴らしさをカナダの人々に伝えていただきたいと強く願う次第です。

第四に、世界に貢献する日本人がこの地で評価されていることの喜びです。この一ヶ月の間に、医療関係で 2 回ほど日本人による偉業に感嘆する機会がありました。まず、「ノーベル医学賞への登竜門」とも言われるガードナー賞が東京農業工業大学の遠藤章教授に贈られました。遠藤教授は、「世界で一番売れている薬」と評されるスタチンを開発されたのですが、これはコレステロールの高い人のための薬で、今や世界で約 4000 万人が毎日使用

しているとのこと。遠藤先生は体調が芳しくないとのことで、表彰式では先生からのビデオメッセージが披露されましたが、世界的な偉業を達成されていながら、とてもユーモアにあふれた笑顔が見られました。もうひとつは、日本の母子手帳制度を世界に広めた大阪大学名誉教授の中村安秀先生がトロント大学で講演されたことです。妊婦と乳幼児の死亡率を下げる上で、戦後間もない時期に日本で導入された母子手帳が大きく貢献した経験をふまえ、中村先生は母子手帳制度を世界に伝えてきていらっしゃいます。先生がインドネシアの僻地で苦勞されたお話も披露され、会場には様々な国の出身者からなるトロント大学やライアソン大学の医学部の学生を中心に、熱心な議論が行われました。遠藤先生、中村先生共に、困難にぶつかってもくじけることなく立ち向かって克服され、また柔和な笑顔でその成果を分かち合ってくださいという、非常に素晴らしい日本人でいらっしゃいます。このように世界の人々のために貢献している仕事ぶりがトロントで知られたことを大変嬉しく、誇らしく感じました。



【ガードナー賞授賞式にて】



【中村先生によるトロント大学での『母子手帳』に関する講演会】

まだまだご紹介したいことはあるのですが、また次回お伝えいたします。